

はじめに

大学入試で出題された誤文訂正問題の中から、受験生なら必ず一度は解いておくべき「良問」を精選しています。1回の演習で10問ずつ出題しており、演習は全部で50回ありますから、合計で500問解くことになります。この500問を解くことによって、誤文訂正問題を解くために必要かつ十分な練習をすることができるように本書は設計されています。これは、同時にライティング全般で必要とされる文法・構文の土台が完成するという事です。

誤文訂正問題とは、自分が書いた英文を見直し、間違いを発見し、正しく修正する「英作文の推敲」と同じことです。英文を訂正するという意識を持って取り組むことがとても大切です。しかも、入試で出題される誤文訂正問題には文法・語法・定型表現などのポイントが必ず含まれています。ですから、英文法の基本的な学習が一通り終わった段階で本書に取り組むのが効果的と言えます。

問題は別冊になっています。設問の指示文はつけていません。誤りのある下線部を指摘し、正しい語句にしてください。そして本冊の解答・解説では、まず、その問題の具体的な解法手順の説明や、ポイントに関する詳しい解説が続きます。「なぜその英語が間違いだと言えるのか？」という解答の根拠を理解することが大切です。次に、大前提となる英文法の知識を**参考**としてコンパクトに掲載しています。**参考**の知識や表現はすべて理解して覚えるようにしてください。なお、間違いの訂正方法は1つとは限りません。本書では最もシンプルな訂正例を1つだけ（場合によっては2つ）掲載してあります。

まとめには代表的な表現をリストアップしてあります。すべて正確に再生できるまで何度も繰り返して覚えてください。さらに、**まとめ**の表現に関して辞書を引き、その具体的な使用例を確認することを勧めます。辞書の例文を声に出して発音したり、ノートに書いてみたりすることは立派なスピーキングとライティングの勉強になります。

500問をすべて解いて、解答・解説を一通り読んでも、それで終わりではありません。大学入試に必要なかつ十分な英文法の知識を完璧に定着させるためには、何度も何度も繰り返すことが大切です。計画を立てて定期的に復習をしてください。そうやって定着した英文法の知識が、英語4技能（＝リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を支える土台となるのです。

本書の記号

S：主語（原則として名詞）

V：述語動詞

O（O₁ / O₂）：他動詞や前置詞の目的語（原則として名詞）

C：補語（原則として形容詞や名詞）

to do：to 不定詞

do：原形不定詞

doing：現在分詞・動名詞

done：過去分詞

* 修飾要素（句・節）に関しては、「かっこ」の使い分けをする。

[]：名詞句[節]

()：形容詞句[節]

< >：副詞句[節]

ライティング演習の活用方法

ライティング演習は、大学入試に活用される外部検定試験や、各大学が実施する個別学力試験でのライティング問題に対応する力を養うためのものです。頻繁に出題される出題形式や設問テーマが広くカバーされているので、どのような試験や大学を志望している人にも、効果的なライティング試験対策として役立ちます。また、演習の大半はそのままの形でスピーキング試験対策の土台として役立ちます。

演習は、本体と同様に「正誤問題」の形式で行います。ただし、「誤りの指摘」だけではなく「正しい形への修正」が求められますので、より能動的に「書く」という意識を持って取り組むことができます。

以下の手順に従って行うことで、最大限の効果を上げることが可能です。

手順 1

問題に取り組む前に冒頭の解説をていねいに読みましょう。設問形式ごとの特徴がコンパクトにまとめられているので、合格答案を書くための「コツ」をつかむことができます。ライティング試験対策でもっとも大切なのは、「何をどのように書くべきか」を意識して、その枠組みに従って、「試験が求める答案」を書くことです。この解説を読むだけでも、より良い答案に一步近づくことができます。

手順 2

Directions (指示文) をしっかりと読んでから問題に取り組みましょう。ライティング試験では、設問指示文が英語で書かれているのが一般的です。典型的な指示に慣れるとともに、「何を、どのように、どの程度まで書くべきか」をしっかりと理解してから作業に取り掛かる習慣を身につけましょう。

Sample Answer (答案例) は、いくつかの修正すべき点を含んでいます。ポイントは文法や語法に関するものもあれば、表現や構成に関するものもあります。自分が答案を作成しているつもりで、正しく、より優れた答案にするにはどのように修正すればよいかをじっくりと考えてみてください。余白などに修正案をメモするとよいでしょう。

手順 3

解答 と **解説** を読んで、**Sample Answer** の間違っていた点とその修正のしかたを確認しましょう。その際、「英語の正しいルール」を文法・語法・表現の面からしっかりと理解するように心がけてください。単なる「答え合わせ」をするのではなく、自分が英語を書く側に立った時に、「ルール」がきちんと活用できるかどうかを確認することが目的です。

示されている修正案は皆さんにとってもっとも効果的なものです。それ以外の修正のしかたが可能な場合もありますが、まずは示された修正案にしたがって「ルール」を確認することを心がけてください。

手順4

Model Writing 1で答案全体を確認しましょう。**Model Writing 1**は、**Sample Answer**の問題点をすべて修正した「完成品」です。そこには、合格答案が備えているべきポイントが全て含まれています。文法・語法・表現の面からだけでなく、「何を、どのように、どの程度まで書くべきか」という点からも、合格レベルに到達するために身につけるべきエッセンスが詰まっているのです。

Key Expressionsでは、修正ポイントに加えて皆さんが理解し、身につけておくべき重要表現について解説されています。ここにしっかりと目を通すことで、答案作成に役立つ表現を1つでも多く身につけてください。

手順5

Model Writingのエッセンスを自分のものにするには、答案そのものの音読や書き写しが効果的です。「声に出して読み上げる」「実際に紙に書き出す」といった身体を使った作業を行わない限り、ライティングやスピーキングといった発信型のスキルを身につけることはできません。この作業を行うか行わないかで、学習したことが合格につながるかどうかが決まると言ってもいいでしょう。とても大切な作業です。

その作業をアシストするために、**Model Writing**のネイティブスピーカーによる読み上げ音声を用意されています（ダウンロードについてはp. 006を参照してください）。基本的には、〈①繰り返し聞く→②音読を行う→③書き写す〉というステップを踏むとよいでしょう。その際、**Model Writing**の上にある『チェックボックス』をぜひ活用してください。**Listen!**（音声を聞く）/**Read Out!**（読み上げる）/**Copy!**（書き写す）という3つの作業を最低でも2回ずつ行い、作業を終えたボックスにチェック☑を入れましょう。

Listen! ⇒ Read Out! ⇒ Copy!

手順6

さらに**Model Writing 2**を活用して、**手順4～5**を行ってみましょう。**Model Writing 2**は、**Model Writing 1**と同様の主旨のものもあれば、対照的な内容になっているものもあります。できるだけ多くの「完成品」に触れて、理想的な答案に少しでも近づきましょう。

Model Writing 1と同様、**Key Expressions**で理解を深め、また読み上げ音声を活用して定着のための作業を行いましょう。

演習 2 回目

問題 11 ~ 20

(→ 解答・解説は本冊 p.010)

- 11 ① Being eco-friendly is a new way of living ② that many people ③ have begun to ④ adapt. (中央大)
- 12 ① Before you substitute tofu ② into meat in this recipe, you ③ had better make sure your guests ④ will eat tofu. (立命館大)
- 13 ① One of the reasons why ② we learn a foreign language is ③ to communicate people from different cultures. (上智大)
- 14 ① There are an ② estimated 7,000 individual languages ③ speaking ④ somewhere in the world. (学習院大)
- 15 It ⑤ may be a character flaw, but I always try to do things ② by myself ③ for avoiding the mistakes that others ④ might make. (慶應義塾大)
- 16 My parents never thought ① of me capable ② of doing an ③ advanced degree ④ in physics. (上智大)
- 17 Rumor ① has it that the president of our company ② buys ③ all kinds of brand-name products ④ regardless for the cost. (高崎経済大)
- 18 You ① must have been ② in a lot of pain when ③ you had your tooth ④ pulling out. (立命館大)
- 19 The announcer ⑤ on the radio said that this weekend will be ② the hottest since 2010. Everyone should ③ make sure that they drink ④ enough of water and use sunscreen when they go out. (南山大)
- 20 To apply ① to a passport, you have to ② fill out the application form, attach two ③ recent photos, and ④ take it to the local passport office. (南山大)

演習7回目

問題61～70

(→問題は別冊 p.014)

61

解答

③ prohibited

アメリカでは、かつてアルコールの販売を禁止した法律があった。

解説

✓ it(S) prohibited(V) the sale of alcohol(O) という第3文型に注目。a law that の後ろにこの「完全文(←ここでは第3文型)」が続くので、この that は同格用法の接続詞ということになる。ところが、「それがアルコールの販売を禁止したという法律」という不自然な意味になるので、③が間違っていると判断できる。

✓ ③の it を削除すると、a law that(S) prohibited(V) the sale of alcohol(O) という構造になる。that の後ろに「不完全文(←ここでは述語動詞 prohibited に対する主語が欠けている)」が続くので、この that は主格の関係代名詞ということになる。「アルコールの販売を禁止した法律」という意味も通るので正解。

参考 〈名詞+that節〉の区別

1) 〈名詞+that+完全文〉

* that は接続詞で、that 節は名詞節(=名詞の具体的な内容を説明している)。

(例) the news that she went to Osaka 「彼女が大阪に行ったという知らせ」

→ she(S) went(V) (to Osaka) (副詞句) という完全文(←ここでは第1文型)。
the news はどんな内容? → that she went to Osaka 「彼女が大阪に行った(という内容)」という情報の展開になっている。

2) 〈名詞+that+不完全文〉

* that は関係代名詞で、that 節は形容詞節(=名詞を修飾している)。

(例) the news (that she heard on the radio) 「彼女がラジオで聞いた知らせ」

→ 他動詞 hear の目的語が欠けている。この that は目的格の関係代名詞。「彼女がラジオで聞いた知らせ」は、どんな内容なのかかわからないことに注意(←1)との違い! 1) では、知らせの内容は「彼女が大阪に行った」ということである)。

ライティング演習①

解答と解説

(→問題は別冊p.069)

① She seems that she is → She seems (to be)

❗ seem を用いて「…と思われる」という意味を表す場合、具体的な内容を持つ名詞 (S) を主語にするときには **S seem to do...** という形になります。これを、It を主語にして書き換えると **It seems that S V...** となります。*S seem that S V... という間違った形を用いないように気をつけましょう。

② she was too sleepy that → she was so sleepy that

❗ 「あまりに…なので～」というつながりを表すには、**so ... that S V** という構文を用いることができます。副詞 **so** と接続詞 **that** が相関的に使われています。*too ... that や *very ... that という組み合わせは原則として不可です。too を用いた場合は、**she was too sleepy to keep awake** (眠すぎて起きていられない) となります。

③ She might attend → She may have attended

❗ 「…したかもしれない」という意味を表そうとして **might do** という形を使ってしまふミスがよく見られます。may を過去形にしても、推量の確信度が弱まるだけで、「過去の事柄に関する推量」の意味にはなりません。〈推量〉の意味を表す場合、特にアメリカ英語では may よりも **might** の方が好まれます。

いつの時点のことを推量しているかによって、**may [might] do** (これから…するかもしれない)、**may [might] be doing** (今…しているところかもしれない)、**may [might] have done** (すでに…したかもしれない)、**may [might] have been doing** (今までずっと…しているかもしれない) という形を正しく使い分けられるようにしましょう。

④ by she came home → by the time she came home

❗ 「…(する) までには」という意味を表すには、前置詞の **by** か接続詞の **by the time** を用いますが、前置詞 **by** は (**by + 名詞句**) という形で、接続詞 **by the time** は (**by the time + S V**) という形で用いる点に注意しましょう。したがって、「昼までには」は **by noon** ですが、「彼女が家に帰るまでには」は **by the time she came home** となります。

● Model Writing 1 ● Listen! □□ ⇒ Read Out! □□ ⇒ Copy! □□



In this picture, a little girl is sleeping at the dining table. She seems to be three or four years old. I think she was having lunch with her father, but she was so sleepy that she fell asleep before finishing her meal. She may have attended a swimming class in the morning and become exhausted by the time she came home. Soon her father will put her to bed and let her sleep for a while. (77 words)